

## オーケストラを支える人々

第7回

### 「制作 ~Printed matter~」 若松 光一 (株式会社TRIクリエイツ 印刷部)

中部フィルハーモニー交響楽団 定期演奏会のチラシやプログラムなどの印刷物制作をこの6年間、担当者としてお手伝いをさせて頂いております。“チラシの制作”というと簡単に出来ると思われがちですが、実はかなりの時間を要します。中でもデザインです。弊社にはデザイナーが在籍していますが各定期演奏会の曲目や作曲者からイメージしたり、中部フィル様からのご要望等に合わせたりしてデザインを試行錯誤しながら制作していきませんが、十人十色とは、よく言ったもので…。関係者の皆さんが揃って「いい!」と、感じていただけるデザインにたどり着くことは難しく苦勞したデザインであっても、事務局様より駄目だしを出された瞬間のショック。逆に「いい感じだね!」と、1発OKを言われたときの喜び。都度、一喜一憂です。最終的にチラシやプログラムが完成した時、ようやく達成感を得ることが出来ます。

そして何よりも、オーケストラを楽しみに来てくださる大勢のお客様が手に取って楽しく感じて頂けるような作品を目指し、少しでも中部フィルハーモニー交響楽団様のお役に立てるよう頑張らせて頂きますので、今後ともよろしくお願いたします。



## 事務局だより

### はじめまして

建部 信喜

中部フィルの総会で、副理事長を拝命しました建部です。音楽についてはまったくの素人ですが、縁あってお世話になることになりました。お客様(聴衆)からは勿論のこと、楽団員・関係者の皆様にも喜んでもらえるよう頑張りますので、よろしくお願いたします。

趣味といっても特になのですが、焼き物が盛んな瀬戸・多治見では、窯元を回って晩酌に使う「ぐい呑み」集めをしたり、時々エッセイを書いたりしています。

今年の夏休みには、学生の頃読んだベートーヴェンがモデルといわれる「ジャン・クリストフ」(ロマン・ロラン著)を再び読み返し、文字を通じて音楽(?)に触れてみました。

思いがけずこのような機会を得たことにより、これからは存分に「時の芸術・生の音楽」に触れて、勇気を買ったり、人生の彩りを豊かにできればと、楽しみにしています。

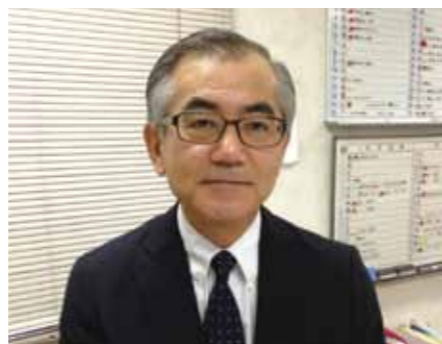


加藤 道雄

5月より中部フィルの事業部長を仰せつかりました加藤です。事業部は当団において初めて設置された部門で、部と言っても私ひとりのチョット寂しい部署ですが、主な業務は法人・団体会員の新規勧誘、依頼公演の受注活動ならびに定期演奏会のチケット販売など、中部フィルの音楽活動を少しでも多くの皆さまにご支援ご理解頂くための営業業務を担っています。

さて、私の人生での音楽と言えば、40数年前の学生時代に全盛期であった、ロックやフォークを夢中になって聞いていた思い出で、以降はポピュラーソングが中心でしたが、何を間違ったかこの歳になってクラシック音楽の世界に身を置くとはいくくの青天の霹靂で、何をやるにも大変手間取ってばかりですが、1日でも早くクラシック音楽に馴染めるよう、毎日の自動車通勤時間を利用してCDを聞いている。

こんなクラシック音痴の私ですが、中部フィルが今後ますます発展・活躍できるよう、微力ですが頑張りますので宜しくお願いたします。



### ~平成26年1月から会費をコンビニで支払えるようになります!!~

今まで中部フィルの会費の納入は、郵便局と銀行でのお取扱いしかできませんでしたが、支払方法の拡大による利便性向上のため、現在、コンビニでのお取扱い導入の環境テスト等を行っております。来年1月から、皆様のお近くのコンビニが利用できる予定です。皆様には、会員の更新期になりましたら、新しい様式の払込票を送付致しますので、更新のお手続き下さいませよう、よろしくお願い申し上げます。

### 中部フィルだより 第22号

発行日 2013年11月11日  
発行所 NPO法人  
中部フィルハーモニー交響楽団  
〒485-0041 小牧市小牧二丁目107(市民会館内)  
TEL:0568(43)4333 FAX:0568(43)4334  
http://www.chubu-phil.com/

### 編集後記

前号の「中部フィルだより」でご紹介させていただいた佐藤ファウンダーの「深い〜いはなし」に纏わる後日談ですが、文面の中に登場した瀬川さんから後日お手紙が届きました。改めて音楽の絆の力を感ぜました。詳しい話はいずれまた……。早いもので2013年も残すところ1か月余りとなりました。今年も一年間中部フィルをご支援いただき、本当にありがとうございました。2014年も事務局、楽団員一同、より良いコンサートが開催できるよう、鋭意努力していきたく思います。(K)



第22号

発行日 2013年11月11日

NPO法人中部フィルハーモニー交響楽団

# 中部フィルだより

## 文化庁の「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」

真野 弘志

今年の夏は、気温が35度を超える猛暑により水不足や異常気象の影響で台風の発生が10月中旬まで続きましたが、やっと秋めいてクラシックファン待望の季節になりました。本年度も文化庁より「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」について、当楽団が採択され兵庫県・香川県・高知県・愛媛県・徳島県の生徒数100名~850名の小中学校20校を9月30日から12月9日にかけて巡回公演を実施します。この巡回公演の内容をご紹介させていただきます。編成は総勢68名で指揮者、演奏者60名、音響・舞台スタッフ8名です。先発隊として、音響・舞台スタッフはトラック2台とワゴン車1台で体育館の舞台セットのために1時間以上前に出発し、演奏者等が到着する前までに舞台準備が終了しています。演奏者等は、到着次第各自パートの練習をし、ゲネプロに備えています。ゲネプロでは、指揮者の指示により公演プログラムを全て行い、子ども達に最高の演奏を聴いてもらうように本番に備えます。今回は小学校公演のプログラムを紹介します。幕開けは、ロシア二歌劇「ウィリアム・テル」序曲より「スイス軍の行進」です。トランペット、ホルン、ティンパニのファンファーレに続き、軽やかな行進曲が始まり大きなクライマックスで締めくくられるこの曲は、子ども達を音楽の世界に引き込む第一歩です。次は、「宇宙戦艦ヤマト」のテーマにのせて、楽団員によるナレーションでオーケストラで使われている全楽器の紹介です。次に、マスカ二歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」より「間奏曲」はハーブの分散和音によって弦楽器の美しい旋律で奏でる子供の心を捉える曲です。次の「みんなで踊ろう! ボディーパーカッション」では、子ども達は手・足・体全体を使い演奏に負けない迫力で踊り、「みんなで歌おう!」では、各学校が選んだ合唱曲をオーケストラとコラボレーションします。最後は、オーケストラの得意とするチャイコフスキー交響曲第4番より第4楽章で、全合奏の最強音から始まりめぐるしい転調と共に終結へと突き進んでいくテンポは、オーケストラの迫力を子ども達に感じてもらえる構成です。なお、各学校に当楽団のサプライズを用意していきます。今後も、当楽団の素晴らしい演奏を子ども達に届けていきクラシックファンの底上げに寄与できればと思います。



ボディーパーカッション みんなで踊りました



写真提供:三豊市

## ちょっとチャット

藤井 昭

クラシックの歴史にはいろいろなエピソードが語り継がれています。私もそんな本を読みながら、全くどうでもよい疑問が生じたので、こんなクイズを考えてみました。この3問、暇な人は調べてみませんか。 ※正解はPage3の下方にあります。

Q1

モーツァルトは幼年時代、宮廷に招かれマリーアントワネットの前で演奏し、将来僕のお嫁さんにしてあげる、と言ったそうですが、アントワネットがフランス革命で処刑されたときには、モーツァルトはまだ生きていたのでしょうか?

Q2

モーツァルトとベートーヴェンは同じウィーンに住み、短い間生涯が重なりますが、二人は出会ったことがあるのでしょうか?

Q3

ベートーヴェンは交響曲3番を「ボナパルト」と名付け、ナポレオンに捧げようとしたのに、ナポレオンが野心家の皇帝となってしまったことに憤慨し、単なる「英雄」と改名して発表したといわれていますが、ナポレオンが死んだときベートーヴェンはまだ作曲活動を続けていたのでしょうか?



♪ 音楽こぼれ話あれこれ ♪

佐藤 宏

プロオケ(オーケストラ)今、昔

私がプロオケの世界に入ったのは、約半世紀も昔、1960年、関西楽壇の雄、大阪フィルハーモニーに幸運が重なって入団した訳であるが、当時は明治、大正生まれの方々で楽団の中核をなしていた時代で、封建社会が残っていた。

例えば演奏旅行の時、現在のように座席指定で、座席を確保できる時代でなかった時の列車移動などでは、若い楽団員が座席に座って先輩楽団員が立ちんぼ、なんて考えられない事だったし、旅館に団体で宿泊の時、風呂に入るのも先輩から順番に……というのが当たり前前の時代だった。

従ってオーケストラの本番で気を張って、ホテルに帰って迄、気を使えばなしで本当にくたびれたものだった。

また、新人楽団員にとって最も過酷だった事はせっかくオーディションで合格して入団したにもかかわらず、練習の時、指揮者から全員の前で弾かされ(難所を)、上手くできなかった場合、即刻解雇(くび)なんて事も日常茶飯事で多くの友人たちが去っていったつらい時代でもあった。

しかし悪い事ばかりではなく、運良く正団員になった場合、その待遇は現在の方々には信じられない程良いもので、楽器やポジションによって異なるが大体世間の同年代3~5倍というのが普通だった。

それにしても現在の方々の一部のオーケストラを除いて極悪のもので、この事を改善していくことが運営に携わる我々理事の使命だと思う「オーケストラの未来のために……」

最近の演奏会から

犬山定期レポート

ヴァイオリン 藤原 綾

彼岸花が至るところで美しく咲き乱れ、秋晴れの日の9月28日、犬山市民文化会館で定期演奏会がおこなわれました。プログラムは海老原光さん指揮でチャイコフスキーの歌劇「エフゲニー・オネーギン」より「ボロネーズ」から始まりました。実はこの曲、中部フィルは1週間前にも松尾葉子さん指揮で演奏したのですが、同じ曲でもテンポ・フレーズのとらえ方で全然違ったものに聞こえても良い勉強になりました。

2曲目はシベリウスの「カレリア組曲」、そして前半最後はチェコの国民的作曲家スメタナ「我が祖国」より「モルダウ」と「ボヘミアの森と草原から」でした。1度聴いたら忘れられない美しいメロディー、源流から始まり祖国の風景が感動的に歌われています。驚くのはこの曲を作曲した頃、スメタナはすでにほとんど耳が聴こえなくなっていたということ、そんな苦しみの中でうまれた名作を演奏できとても幸せな時間でした。

後半は佐藤眞「カンタータ 土の歌」、合唱団の方たちとの共演です。

この曲の終曲「大地讃頌」は卒業式でも良く歌われており私も中学の卒業式で歌いました。当時合唱部だった私の最後の練習した曲でしたが、あれから1度も歌っていないのに覚えていて、楽譜がなくとも歌えるほど染みついてるのだなぁとしみじみしながら本番を終えました。ご来場いただいた方々、またゲネプロが終わった後、お昼ご飯の時間を削って熱心に練習していた犬山音楽文化協会合唱団の皆様、本当にありがとうございました!



東海ゴムチャリティーコンサート

ヴァイオリン 加藤 恵子

今年で第14回を迎える東海ゴムチャリティーコンサート。

中部フィルの設立以来、長年ご支援いただいている東海ゴム工業が文化面での社会貢献の取組みとして2000年から継続されています。このコンサートでの募金は全額、福祉関係団体へ寄付されています。

私達にとっても東海ゴムチャリティーコンサートは定期演奏会と同様に大きな意味を持つ演奏会です。

今年のプログラムはベートーヴェン「エグモント」序曲、ブルッフ「ヴァイオリン協奏曲第1番」、メンデルスゾーン交響曲第3番「スコットランド」でした。エグモントはこれまでに何度も演奏した曲ですが、毎回新しい気持ちで取り組んでいます。ブルッフ「ヴァイオリン協奏曲」のソリストは名古屋フィルでコンサートマスターをしていらっしゃる田野倉雅秋氏。オケを知り尽くした素晴らしい演奏に私達も吸い込まれました。

後半は秋山芸術監督と佐藤ファウンダーのトークから始まりました。秋山氏が指揮台から落ちたことがあるという貴重な体験談も飛び出すなど盛り上がり中、ヘルベルト・フォン・ホリヤン氏も飛び入りで加わり、会場は笑いの渦に巻き込まれました。因みに客席からはご覧になれませんが、舞台袖では楽員も一同大笑いだったことをご報告いたします。

そしてスコットランド。本番にはいつも独特の集中力、結束力、全員の魂が一つになる瞬間があります。オーケストラをやっている時ほど幸せな時はありません。

学生の頃、師匠に「オーケストラプレイヤーはスポーツ選手と同じだから体力をつけなさい」と言われました。確かに全力で演奏し、本番が終わった後には余力はない程に体力を使いすぎますが、疲れを上回るこの時の幸福感は言葉にできません。この日も大きな幸せを感じ、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

ところでこの東海ゴムチャリティーコンサートで、もうひとつ名物になっている、あの大きな花束。ソリスト田野倉さんよりけそうになりながら(?)持っていらっやいましたがあの花束、なんと3.8kgもあるのですよ。

今後もこのコンサートが継続していただけるように、私達も引き続き頑張りたいと思います。



ステマネくんの楽屋 de トーク!!

第7回:望月康宏さん 宮澤香さん

(インタビュー:吉田敬一)

今回の楽屋deトーク第7弾は、演奏だけではなく理事として運営にも携わっていただいている、コントラバスの望月康宏さんとオーボエの宮澤香さんのお二人にお話を伺いたと思います。



◆ - オーケストラとして今後の目標や夢は?

望月…オペラをやりたいですね。「オペラといえば中部フィル!」といわれるようになりたいですね。

宮澤…「中部フィルです。」と言ったときに「ああ、あの素晴らしいオーケストラですね。」と言っていただけるような皆様に愛されるオーケストラになりたいですね。

◆ - お二人が楽器を始めたきっかけを教えてください。

望月…大学の時に先輩に勧められて(無理やりオーケストラサークルに入れられて)始めました。それまでは音楽と言えばピアノと、高校生の時に合唱部だったことです。

宮澤…中学の時はファゴットをやっていたんですが、諸事情があり、高校に入って「オーボエがない。誰かやらないか?」ってオーボエになりました。

◆ - それぞれの楽器の魅力をお願いします。

望月…一言でいえば縁の下の力持ちです。低音部からオーケストラを支えています。そこにつきます!

宮澤…逆にオーボエはメロディの華やかさです。ソロも多く緊張しますが「大丈夫!出来る!」と思って演奏します。

◆ - 尊敬する音楽家は?

望月…河村隆一の気合の入ったヴォーカル。XJAPANのYOSHIKI。あとTOSHIの声も好きです。

宮澤…尊敬というより感謝なのですが、オーボエを始めた時に吹奏楽部で指導をくださった方です。音楽に対する考え方などはその人の影響が大きいですね。あとは芸大時代の教授陣は皆さん素晴らしい方です。

◆ - 音楽以外で趣味は?

望月…DVD鑑賞かな。特に海外ドラマです。

宮澤…主人の影響で映画鑑賞。子育て……でも趣味ほどやってない(笑)ほったらかしだから(笑)。あとは編曲を兼ねたパソコンいじり。

◆ - 最後に中部フィルを応援してくださっている皆様へ一言。

望月…まだまだ弱小オケですが皆様のご協力のもと更なる発展のため理事としても頑張っていきたいと思っております。応援してください。

宮澤…お客様に喜んでいただけるステージを目指し、日々努力をしていきたいと思っております。今後も暖かく見守っていただけたら嬉しいです。

◆ - 常任理事に就任されて現在の心境は?

望月…楽団員から2名が理事になるのですが、選ばれてはみたものの、非常に責任が重い立場で大変なのですが、楽団の発展のために尽力していかなければと思っています。

宮澤…常日頃からいいオーケストラになればいいなと思いつつやっています。

◆ - お二人から見た中部フィルの魅力は?

望月…いい意味で伝統がなく、縛りも少ないのでいろいろ自由にできることです。

宮澤…苦労する部分でもあるのですが、無から有を創っているという事に魅力を感じています。あと木管楽器を中心に学生時代一緒に勉強した仲間が近くにいてその人たちと今いっしょに演奏できているという事、そこに世界的な指揮者の秋山先生に棒を振っていただいているということは私にとって大きな魅力です。

◆ - 思い出に残っている公演は?

望月…良い思い出は「ベートーヴェン・マラソンコンサート」です。あの頃はまだ名前も全然知られてない時に名フィルやセントラル愛知、アンサンブル金沢と一緒に中部を代表するオーケストラとして出演したことは思い出深いですね。悪い方の思い出は「万博記念コンサート」ですね。当時インスペクターをやっていたのですが段取りがうまい事いなくて苦労しました。そんな時期もありました…。

宮澤…私は良くも悪くもですが、自分が生まれて初めてソリストとしてコンチェルト演奏した時です。2001年の第3回定期で秋山先生の指揮だったんですが、モーツァルトのコンチェルトの後ブラームスの交響曲1番も演奏して、それが当時自分の結婚式の1週間後だったので、今考えればよく引き受けたな〜って思います。

ちょっとチャットの正解

- Q1 フランス革命は1789年、マリーアントワネットの処刑は1793年、モーツァルトはその前の1791年35才で既に亡くなっていました。
- Q2 ベートーヴェンは16才の時、31才のモーツァルトの前でピアノ/即興曲を演奏し、モーツァルトから大絶賛された、とモノの本にあります。
- Q3 ナポレオンが流刑先セントヘレナ島で死亡したのは1821年、第九交響曲は1824年に発表され、その3年後ベートーヴェンは世を去ります。